

第7回在宅医療及び医療・ 介護連携に関するWG	参考 資料
平成30年11月12日	4

## 第6回 ワーキンググループにおける主な意見

<在宅医療の充実に向けた取組について>

- 圏域ごとの活性化というのは、最終的にはみんな非常に苦労しているところだと思う。その中でこういう取組があったことは非常に有効だと思う。
- 退院支援とか看取りというところの調整機能をケアマネジャーとして担っていく中、ICTをどう活用していくかということは、県レベルではなく、国レベルで推進していく必要がある。そのためにどうすればいいかというところを議論していかなければいけないと感じている。

<在宅医療の充実に向けた議論の整理（案）について、今後議論が必要な事項（案）について>

- 在宅医療はボトムアップが非常に重要である。
- KDBデータがほとんど使われていない。KDBデータをもう少し見やすくする等、改善する方法はないのか。
- もし大きな災害が起こったときに、我々ほどの様に在宅医療在宅介護を受けていらっしゃる方々を守ってあげればいいのか、あるいはどんなツールを使って情報共有すればいいのか、議論が必要。
- 人生の最終段階における医療・ケアについての、市民公開講座等の普及・啓発も必要であるが、ケアマネジャーや介護職もこの辺の理解と普及というところの研修等も、まだまだ浸透していないところもあり、そこの追加をお願いしたい。
- 追加的な需要について、あくまでも機械的に出してくる推測値であって、目安であるということの意識は、もう少し強く持っておきたいと思う。
- 追加的な需要について、信頼できる数字にするために、工夫する方法は何かというと、市町村のボトムアップ、余裕も含めてあるかどうか、その辺も含めて考えていただきたいなと思っている。
- 議論はどうしても高齢者にシフトするが、医療的ケアを必要とする小児とかがん患者さんに関しては、同じような視点でサポートしていく必要があるのではないかと。
- 後方支援病院等との連携ルールの策定について、地方では距離的な問題、診療所の先生の高齢化、有床診療所の閉院等がある現状で、在宅医療のハードルが高い。こういう地域は病診連携をしっかりと、療養病床とか地域包括ケア病棟が、積極的に在宅へ出て行って地域の先生と組む。一定規模の病院が参画して、積極的に訪問診療に出ていくということを一つの大きな項目として挙げていただいたほうが、在宅が進むのではないかと。

かということを感じている。

○在宅医療の提供体制に求められる医療機能について、そろそろ人生最終段階というときに、急変の対応はこのままの対応で結構ですが、病状の変化から看取りに行くという、何かもう一つ入れておいたほうが、わかりやすい構図になるのかなと思う。

○在宅医療の医療・介護連携をして、目指すところは一体何なのですかというときに、いわゆる在宅看取り、単純にその数だけで評価していいかという話があった。研究事業で評価指標が出てこなかったということ。それは非常に大事なところだと思う。そういったものが、いつごろみんな合意する形が出るのか。

○整備目標について、整備することは決して目的ではないので、その整備した結果どうかということ、次の段階で評価指標にそういうものを考えていかないと、ただ単にできました、支援しました、で終わってしまう。